

【目的】

世界中で新型コロナウイルスの感染が拡大し、イタリア、スペイン、アメリカは医療崩壊の危機に瀕し、我が国でも感染爆発（オーバーシュート）に向って事態が悪化しつつある今、患者さんの命を守り、職員一人一人の命と生活を守るためこの手引きを作成する。

【感染予防のための原則】

新型コロナウイルスはノロウイルスのように感染し、目、鼻、口から侵入する！！ 目、鼻、口を守る！

潜伏期間は約5日間（1日から14日）感冒症状（発熱、咳、喀痰、咽頭痛、鼻汁）などの症状が比較的長く、平均約7日間持続する。感染力はインフルエンザより少し強い程度。感染経路は飛沫感染、接触感染、一部でエアロゾル（くしゃみなどで発生）に加え、**排せつ物、吐物、唾液から感染 つまり食事とトイレでうつる！！**

感染対策は 手洗い、咳エチケット、換気と環境消毒 検温 加湿して喉を潤すこと。

3密（密集、密閉、密接）を避ける 換気が悪く、人が密集する場所、特に近い距離での飲食を避ける

【体調管理】

- ・朝出勤前に体温を測る 自分の体調を確認する
体温が37.5度以上1日でもあったら自宅待機
- ・咳、咽頭痛、味覚異常、体のだるさ、嘔吐、下痢、体温が37度以上が2日続くなどの症状があったら医師に相談して休むかどうか決める 医師に相談できない際には仕事を休む
- ・上記の体調不良が4日以上続くときには、医師（各院所の責任者）の診療を受ける
- ・出勤時には体温を測る 退勤時も体温を測る
- ・家族に、37.5度以上の発熱の人がいる場合や体調不良の人がいる場合で自分の体調が問題ない場合には、医師に相談する。原則として事業所での勤務不可。
- ・37.5度以上の発熱があって自宅待機になった者は、原則として、医師の許可によって出勤可能とするが、その目安は最低4日間の37.5度未満の期間の継続である

【感染予防の行動 勤務時間内】

- ・通勤の電車やバスでも1mから可能なら1.5m以上人との距離をあける。難しい場合は、時差通勤や、マイカー通勤などについて管理職に相談する。
- ・出勤時にオフィスに入る前に手を洗う
- ・オフィスではマスクを常に着用し、人との距離をあける マスク着用で1m マスク無しで2m
- ・マスクの表面は触らない、マスクを触ったら手指消毒、マスクを置くときは必ずティッシュペーパーを敷いて置く
- ・共有のパソコンは使用するたびにアルコール綿で拭く アルコール綿を共有パソコンの側に置いておく 共有のタブレットも表面をアルコールで毎日拭く
- ・オフィスで食事の際には、2m間隔をあける、外食の際にも2mの距離をあける
- ・オフィスの換気 2時間毎 オフィスの環境消毒 **トイレは各自が使用するたびに消毒** 使用後は手を洗う
- ・往診中にコンビニや患者宅でトイレを借りるのも注意 使用前後で消毒
- ・患者さんのお宅の訪問時と、退出時に手を洗う 手指消毒でも良いが消毒薬は節約して使用 補充困難
- ・往診車は必ず常に窓を少しでも開けて換気をする
- ・退院調整会議、ケア担当者会議は原則として参加しない、電話やテレビ電話を活用する

【感染予防の行動 勤務時間外】

- ・自宅の換気 3時間おきを推奨 睡眠時は不要
- ・勤務外でも外出の際にはマスクを着用する

- ・法人から支給されたマスクは中性洗剤で洗浄して3回は再利用して外出時などに使用する
- ・家に帰ったら必ず手を洗う、うがいをする
- ・外食の際には、他の客と1.5m距離をあけることのできる店にする 居酒屋、バーはダメ
- ・コンサート、ライブ、スポーツ観戦、飲み会、パーティ、スポーツジムは厳禁
- ・県をまたいで旅行は原則として自粛 どうしても必要な場合は上司に相談する

※ご家族を守るため、この内容を同居の家族にも同様に徹底するようお願いしてください

【新型コロナウイルス感染疑い患者の診療と看護、ケア】

- ・医師、看護師、PA（往診介助事務）にN-95 マスク、ゴーグル（オートクレープ可能）一人1個配布する N-95 マスクは自己管理で保存 サージカルマスクとの併用など使い方を工夫する N-95 マスクは月1枚の支給。
- ・各往診チームにガウン、帽子は6セットを用意する ゴーグルは1日1個使用、続けて使用する場合はアルコール綿で拭いて使用する 勤務終了後にはオートクレープをかける

※接触した際の患者と家族の状況とスタッフの防護が、以下の基準を満たしていない場合は、濃厚接触者の可能性があるので、責任者の医師に報告し、該当スタッフの対応を決める。

- ・朝 往診前に患者さんと同居の家族（往診に立ち会わなくても）の中に有熱者がいないか確認して、有熱者がいれば、調整可能な範囲で常勤医が往診する また家に入る少し前にも再度家族、本人の体調を確認すると同時に、可能な範囲で換気をお願いしておく
- ・以下のように感染防御の段階を決める

- ① フルプレコーション（N-95 マスク（サージカルマスク併用）、ゴーグル、ガウン、帽子、手袋）
- ② スタンダードプレコーション（サージカルマスク、ゴーグル、ガウン、帽子、手袋）
- ③ 通常診療（サージカルマスクとゴーグル）
- ④ ウイルスは、口、鼻、目から侵入し、触っただけで皮膚から感染するわけではないので、必須ではないが医師の判断で足カバー、ズボンも使用して良いが数に限りがあるので考慮して使用する。
- ⑤ 布の割烹着とゴミ袋でガウンの代用とする。割烹着は、院内で洗濯、乾燥。係はフルプレ。

- ・基本的にゴーグルなどのアイシールドは常に装着する
- ・患者本人もしくは同居の家族が4日以内に37.5度以上の発熱があった場合、有熱者がその場に居合わせなくても、保菌している患者が咳や呼吸器などでエアロゾルで排菌している可能性があるため、フルプレコーション。その際は荷物は患者宅に直接置かず、ビニール袋に包んで置く、パソコンや、聴診器、SpO2 モニター、カプノメーター、ペンライトなどは、アルコール綿で拭く パソコン、プリンターで1枚、その他で1枚がアルコール綿の使用枚数の基準、アルコールを絞って使用する

（常に体温が37.5度以上、あるいは腫瘍熱、筋緊張による発熱など医師が明らかに感染ではないと判断できる発熱は、通常診療で良い）

- ・それ以外にも、医師の判断で患者の病状、状態により 上記の①~③の段階の防御を実施してよいが、ガウンなどは数に限りがあるので、十分に必要性を考慮して実施する
- ・感染疑いの患者が気管切開の場合に加え、バイパップや、シーパップ、NHF を使用している場合は特に、ウイルスの飛沫、拡散量が多いので、患者との距離を2m以上でも介助者も含め必ずフルプレコーションにする。
- ・一度フルプレコーションを行い、患者の発熱などの症状が改善した後4日間以内に診療する際は、フルプレコーションを継続する。症状改善4日経過した後は、ガウン不要だがN-95 マスクとゴーグルは2週間使用する。
- ・往診介助事務

医師に準じて、感染防御を行う N-95 マスク、ゴーグルは医師同様に使用する N-95 マスクは名前を書いて専用とする。

また、医師の判断で、往診介助事務は玄関や、車内待機にすることも可能、その場合は、感染予防は不要だ

が、玄関待機でも、気管切開、バイパップ、シーパップ、NHF 患者の場合は、上記のようにフルプレコーションにする。

・訪問看護師 訪問リハビリセラピスト 診療所看護師

看護は、患者宅滞在時間が長く、気管吸引でエアロゾルが発生しやすく、排せつ物を扱うので、注意を要する。気管切開や、バイパップ、シーパップ、NHF などが無く、排せつ物の処理のみならスタンダードプレコーションで良いが、発熱のみでなく、くしゃみ、咳など気になる症状がある場合は、N-95 マスクを使用する。気管切開やバイパップ、シーパップ、NHF している患者宅では必ずフルプレコーション。

・診療、ケア後の処理

使用したガウン、手袋、感染疑いの患者で使用したサージカルマスク、帽子は廃棄する、ビニール袋に入れて可能な限り患者宅で廃棄してもらう

※サージカルマスクは洗ったものを感染疑いの患者に使用し、廃棄するなど各自で工夫する

【新型コロナウイルスの安定性】

●温度 4℃で14日間安定 22度では7日後ウイルス検出 37度では2日で検出されなかった 70度では5分で失活

●22度 湿度60%で物の表面に付着したウイルスの活性の持続

印刷物、ティッシュペーパーは3時間で検出されなくなる

加工木材と布地は2日間

ガラス、紙幣 4日間

ステンレスとプラスチック 7日間

サージカルマスク 表面7日後にもウイルス検出 内側 7日後に検出されず

●消毒薬は次亜塩素酸、80%以上のアルコールなどほとんど有効

(The Lancet Microbe 2/4/2020 Stability of SARS-CoV-2 in different environmental conditions)